

SVS Vascular Annual Meeting 2023 in National Harbor, Maryland 参加報告

Date : June 14-17, 2023

静岡市立静岡病院 心臓血管外科 鈴木貴大

今回私は、第 51 回日本血管外科学会(JSVS)学術総会にて最優秀演題賞を受賞し、その副賞として SVS の Vasucular Annual Meating (VAM) 2023 で発表する機会を頂きましたので、拙い文書ではございますが参加に関しましてご報告させていただきます。

会場となったのは Maryland 州 National Harbor の Gayload National Resort and Convention Center でここ数年は 3 年毎に VAM 会場となっている場所です。日本から会場までは羽田空港よりワシントン DC ダレス空港までの直行便が通っており、行きは 13 時間程度、帰りは 14 時間程度のフライトです。VAM2023 開催期間は 6/14~6/17 の 4 日間で、モーニングセッションは朝 6 時 30 分から開始し、セッション自体は 17 時程度まで行われていました。私が発表したのは 6/14 の World Federation of Vascular Societies Educational Session で 6:49~6:55 の 6 分間の発表でした。題材に関しましては「Remodering of Proximal Zone and Sac Remodering after EVAR or FEVAR」を発表させて頂き、日本で topic になっている EVAR 後の type2EL と中枢シーリングに関して併せて研究した内容です。英語発表はやはり日本語以上に緊張しましたが、無事に 6 分間の発表を終え、全体終了後の Panel Discussion に備えましたが、他の先生方の熱のこもった発表で時間が押し、Panel Discussion はなしでセッション終了となりました。同じセッション内ではアジア内での FEVAR 第一人者である Stephen Cheng 先生など、多くの著名な先生方に混じって発表することができ、質疑応答はありませんでしたが、とても貴重な経験となりました。

今回の VAM2023 では多くの日本人発表があり、国循の清家先生、阪大三宅先生、旭川医大菊池先生、そして VAM で最も名誉ある Plenary Session にて日本人 2 名が発表され、東大の白須先生、済生会中央病院の藤村先生が発表されました。先生方の堂々たる発表、そしてスムーズな英語による質疑応答、同じ日本人としてとても誇らしく思え、それと同時に目標とする偉大な姿でした。

その他のセッションでも世界中様々な Dr が行っている研究や、日本ではまだ導入されていないデバイスでの endovascular 成績など、世界レベルでの最先端治療法や成績などにも多く触れることができました。

今回の学会では多くの日本の先生方とも合流することができ、会場に来られていた国循松田先生、札幌医大三浦先生ともお話しすることができました。また、私がまだ若手で海外学会参加・発表が初めてだったため、当院の寺井先生も一緒に参加して下さい、たくさん助けて頂きました。日本の先生方との食事会もセッティング頂き、藤村先生、白須先生、菊池先生、三宅先生含めた合計 6 名での会食は、これからの医療に関する先生方のご意見やキャリアプラン、将来的にもっと多くの日本人が VAM、Plenary Session で発表できるように

していきたいこと、などなどとても有意義な時間を過ごすことができました。

最後になりますが、アメリカでの発表の機会を頂けたことに関しまして、JSVS に深く御礼を申し上げますとともに、今回の日本からアメリカでの発表に関して指導をして下さった当院三岡先生、寺井先生に深く感謝を申し上げ、以上をもって報告とさせていただきます。

